



「こんにちは、病院でした」  
 (山形弁の敬語の基本は、現在の  
 のことでも過去形です。電話に  
 できる時も「高橋でした」と過去  
 形です)  
 奥から「はい」と小さな声  
 で返事が。ずかずかと自分の家  
 のように入り込んでいく私。奥  
 の部屋には寝たきりのおばあさ  
 んとその隣に腰の曲がったおじ  
 いさんがいます。

**訪問を心待ち**

「かわりねえが？」(お変わ  
 りはありませんか?)  
 「先生、よっく、みでくれな  
 ー」(しっかり、診察してくだ  
 さい)  
 患者さんが私たちの訪問を心  
 待ちにしています。

たか はし じゅん  
**高橋 潤** 14期生、1991年卒



「先生の顔見ると元気になる」と話す患者さんの笑顔が  
 高橋医師(左)たちの栄養剤になる

# 在宅医療手助けに充実感

朝日町立病院に私が赴任した  
 のは四年前の五月です。もとも  
 とは県立病院の外科で研修を受  
 け、地域の病院で外科医として

勤務していたのですが、一九九  
 八年からの四年間の診療所勤務  
 では、内科をはじめとして整形

外科、小児科など何でも一人で  
 できることを要求されました。  
 何でもできる、診られる、プ  
 ライマリーケア医にあらがれて

いた私にとっては、プライマリ  
 ケアの実践は外科の仕事以上  
 に魅力あるものでした。その後  
 は内科医として、現在に至って  
 います。

## 私の手作りアイス

現在は、冒頭に書いた在宅医  
 療にはまっています。患者さん  
 が長らく慣れ親しんできた自宅  
 で、好きな家族に囲まれ好きな  
 ことをしながら過ごすことがで

きることを手助けできる素晴ら  
 しい仕事だと思っています。  
 寝たきりになり、家族に支え  
 られながら暮らしている方々  
 は、病院の外来への通院は大変  
 です。元気なわれわれがお宅に  
 お邪魔することは、医療や看護

の提供を効率から考えると無駄  
 が多いかもしれません。患者  
 さんにとってはとてもいい選択  
 肢だと思っています。  
 若いころは、治らない病気の  
 患者さんに対し、何もしてあげ  
 られないことが情けないと感じ  
 ていました。しかし、最近はず  
 すことはできなくても、話を聞  
 いてあげるだけでも患者さんの  
 気持ちを楽しませてあげたり、心  
 地よくできるということをも身  
 もって感じています。  
 今、患者さんに喜ばれている  
 (と私は勝手に思っている)の  
 は私の手作りアイスクリームで  
 す。食欲の無い方でも少しは口  
 にしてください。喜んでくれる  
 患者さんの顔を見るのがうれし  
 くて月に一度は作っています。  
 「Sometimes  
 re、Often relie  
 ve、Always comf  
 ort」(時には治し、時々癒  
 やし、いつでも心地よく)の言  
 葉を胸にこれからも快適に過ご  
 すお手伝いをしていきます。  
 機会がありましたら、読者の  
 皆さんもアイスを食べに、朝日  
 町に来てください。  
 (次回予定は富山県)